

参考文献から見た UpToDate と DynaMed Plus の違い

大瀬戸貴己, 鈴木孝明
奈良県立医科大学附属図書館

I. 背景・目的

EBM(Evidence-Based Medicine)の手法が広く受け入れられるようになり, 多忙な医師にとってエビデンスレベルの高い情報を迅速に入手できるツール(臨床支援ツール)の利用が広まってきている。その中で代表的な2種, UpToDate と DynaMed Plus について, 同一トピックでも採用されている参考文献が異なる場合や, 同じ参考文献を用いていても見解が異なる場合がある。これらを比較し, それぞれのツールの特性について考察する。

II. UpToDate と DynaMed Plus の概要

	UpToDate	DynaMed Plus
形態	教科書	リファレンス・ツール
トピック数	10000 以上	約 3200
トピック内語句検索	可能	可能
トピック書式	説明文	箇条書き(記号・インデント付)
エキスパートオピニオン	エビデンスの乏しいトピックもカバー	Editor の意見は「DynaMed commentary」として明記
推奨度 (Recommendations)	1>2	Strong>Weak 各学会提唱のものも記載
エビデンスレベル	A>B>C	Level1>Level2>Level3
参照文献	トピック末にまとめて一覧	項目ごとに表記。その文献に対する投稿コメントも記載
検索語入力	スペースで区切る	AND 演算子

III. 方法

日常業務で参考文献に関する相違点を見つけた4つの事例, 急性呼吸促拍症候群(ARDS)での非侵襲療法, インフルエンザのタミフル使用, 髄膜炎診断方法 jolt accentuation, 2型糖尿病の強化療法について比較検討した。検討結果については, 当日の発表で行う。

参考文献

鈴木孝明ほか. クリニカル・クエスチョンを用いた臨床支援ツールの比較. 医学図書館. 2013;60(4):459-467